
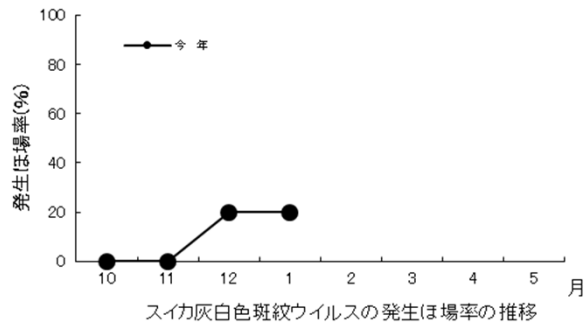
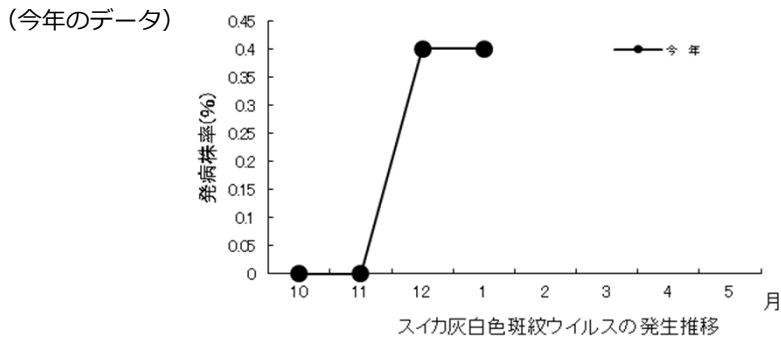


|            |   |    |   |
|------------|---|----|---|
| 作物         | ピーマン  | 地域 | 沖縄群島  |
| 病害虫名       | スイカ灰白色斑紋ウイルス                                    |    |  |
| 1月の発生量(現況) | 判定不可  |    |   |
| 2月の増減傾向    | ↘   |    |   |
| 増減傾向の根拠    | 媒介虫のミナミキイロアザミウマが減少傾向であることから、1月より発生量は減少すると考えられる。 |    |   |


発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病株率は0.4%であった。



防除のポイント

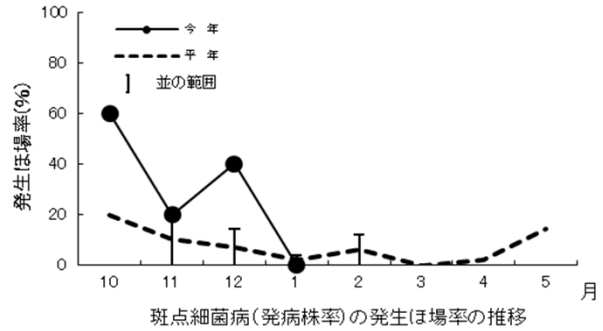
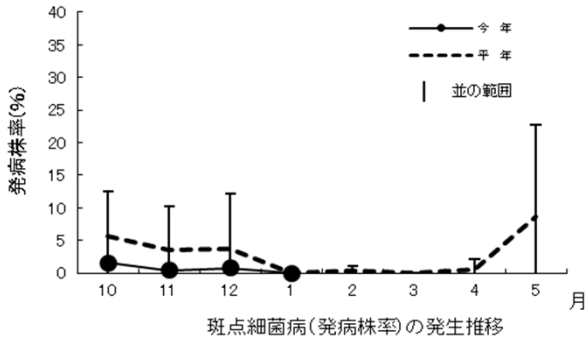
- ・ 本ウイルスはミナミキイロアザミウマによって媒介される。
- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

|            |                                    |   |      |  |
|------------|------------------------------------|---|------|--|
| 作物         | ピーマン                               | 地域  | 沖縄群島 |  |
| 病害虫名       | ① 斑点細菌病                            |  |      |  |
| 1月の発生量（現況） | (発生なし)並                            |   |      |  |
| 2月の増減傾向    | ↘                                  |   |      |  |
| 増減傾向の根拠    | 発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。 |   |      |  |

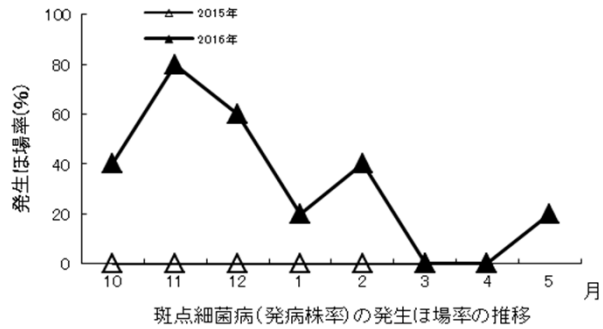
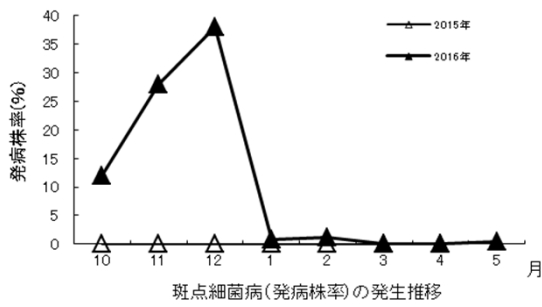
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病株率は0%（前年0.8%、平年0.1%未満）と平年並であった。

（今年のデータ）





（過去2年のデータ）



防除のポイント

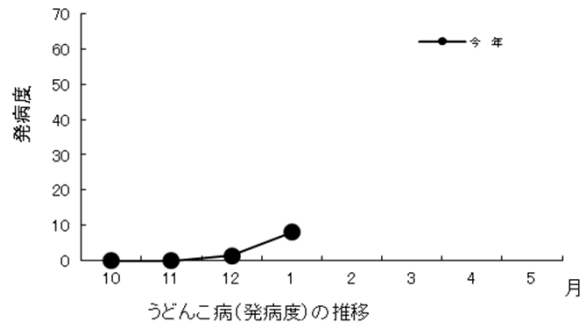
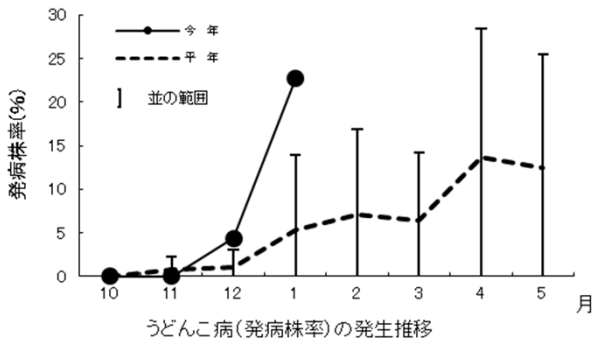
- ・ 本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも被害を出す。
- ・ ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・ 被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。

|            |                                    |   |   |
|------------|------------------------------------|---|---|
| 作物         | ピーマン                               | 地域  | 沖縄群島  |
| 病害虫名       | ② うどんこ病                            |  |  |
| 1月の発生量(現況) | やや多                                |   |   |
| 2月の増減傾向    | ↗                                  |   |   |
| 増減傾向の根拠    | 発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。 |   |   |

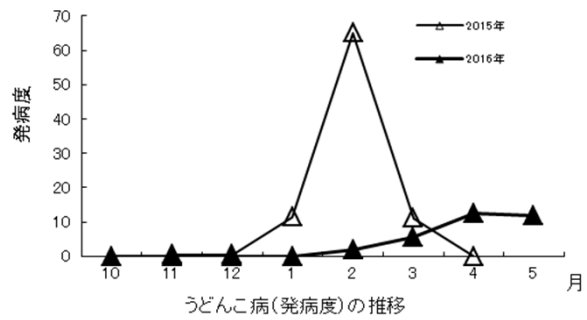
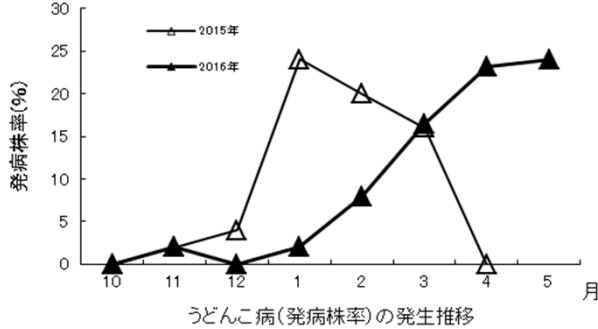
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病株率は22.8%(前年8.0%、平年5.4%)と平年よりやや高かった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

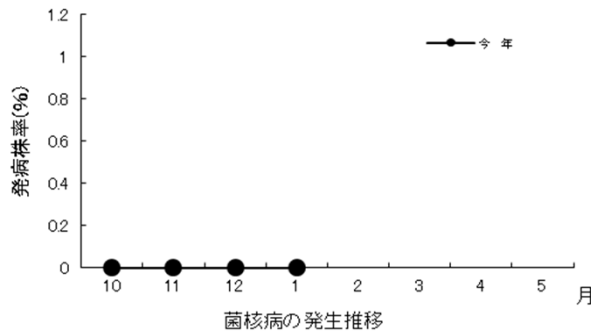
- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

|            |   |   |      |
|------------|---|---|------|
| 作物         | ピーマン  | 地域  | 沖縄群島 |
| 病害虫名       | 菌核病   |  |      |
| 1月の発生量（現況） | (発生なし)判定不可  |   |      |
| 2月の増減傾向    | ↗   |   |      |
| 増減傾向の根拠    | 発病株率の過去2年の発生推移及び、今後1か月の気温が平年より低い見通しから、1月より発生量は増加すると考えられる。 |   |      |

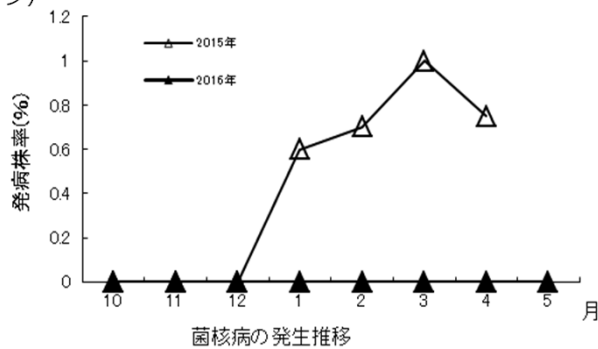
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病株率は0%(前年0%)であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



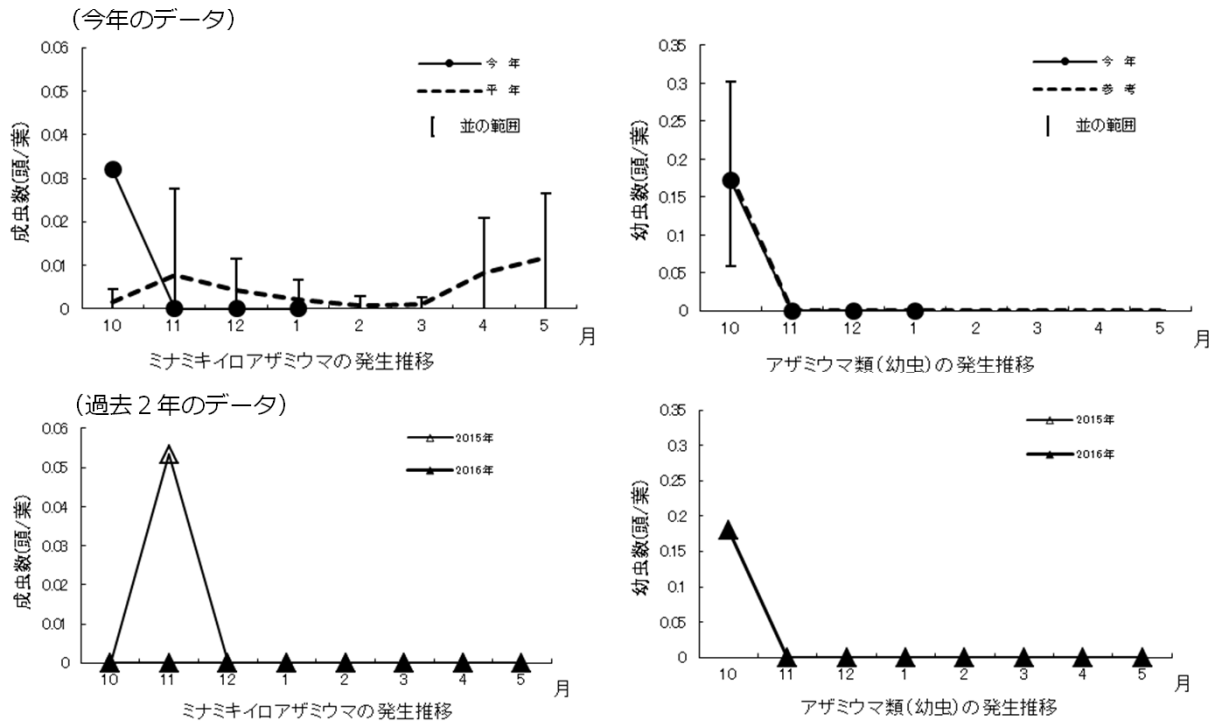
防除のポイント

- ・ 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・ 多湿条件下で発生しやすいので、換気を十分に行い多湿にならないようにする。
- ・ 発生しやすい時期なので、薬剤による防除に努める。

|            |                                   |    |   |
|------------|-----------------------------------|----|---|
| 作物         | ピーマン                              | 地域 | 沖縄群島  |
| 病害虫名       | ③ ミナミキイロアザミウマ                     |    |  |
| 1月の発生量（現況） | (発生なし)並                           |    |   |
| 2月の増減傾向    | ↘                                 |    |   |
| 増減傾向の根拠    | 成虫数の平年の発生推移から、1月より発生量は減少すると考えられる。 |    |   |

発生量の根拠（調査結果）

- ・ 1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0頭(前年0頭、平年0頭)と平年並であった。



防除のポイント

- ・ 本種は新葉や果実を吸汁により加害する。新葉は縮れ、果実にはコルク化した線状の傷が付く。また、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・ 施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・ 繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・初期防除に努める。
- ・ 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。